

札幌駅交流拠点再整備構想(案)

平成 23 年 11 月

目次

序 札幌駅交流拠点再整備構想策定の背景	1
序-1 構想策定の背景・必要性	1
序-2 都心まちづくりの目標	2
I 札幌駅交流拠点の位置づけ・役割	8
I-1 世界都市さっぽろへ向けた基本認識	8
I-2 札幌駅交流拠点の役割・拠点形成の方向性	10
II 札幌駅交流拠点再整備コンセプト	13
III 札幌駅交流拠点再整備の基本方針	14
III-1 再整備に向けた基本的な取組	14
III-2 街区再整備の基本的考え方	39
IV 実現に向けた基本的考え方	45
IV-1 札幌駅交流拠点におけるエリアマネジメントの方向性	45
IV-2 事業展開プログラムの想定	47
V 今後に向けて（ステップ I における検討事項）	49

序 札幌駅交流拠点再整備構想策定の背景

序－１ 構想策定の背景・必要性

札幌駅交流拠点においては、過去に二度、整備構想が策定されている。

第一次の整備構想は昭和53年度、札幌駅付近の鉄道高架化工事が開始された時期（S53.11着工）に策定され、鉄道高架後の駅南北の土地利用や基盤施設整備について検討がなされた。

その後、札幌駅北口駅前広場の都市計画決定（S56.10）および事業認可（S63.8）、鉄道高架工事の進捗（S63.11一次供用、H2.9全面供用）、地下鉄東豊線の開業（S63.12栄町～豊水すすきの間）や、第一次構想策定後の時間の経過などを踏まえ、構想の再検討の必要が生じているとして、昭和63年12月に札幌駅周辺地区整備構想策定委員会が設置された。

第二次の整備構想は、南口駅前広場等の公共施設の配置計画や事業手法、歩行者動線、駅前の空間構成等について検討がなされ、平成4年5月に策定された。

平成5年3月には札幌駅南口土地区画整理事業の都市計画決定・事業認可、札幌駅南口駅前広場の都市計画決定がなされ、現在の札幌駅周辺地区の骨格が固まった。

その後、南口駅前広場の竣工（H12.3）、JRタワーのオープン（H15.3）などの開発により、これまで業務機能が中心だった札幌駅周辺において商業機能の集積が進み、人の流れやにぎわいが駅周辺に偏るなど大きく変化してきたが、平成23年3月に開通した札幌駅前通地下歩行空間により、都心全体として均衡ある発展が期待される。

第二次構想策定から20年近くの年月が経過した今日、札幌は人口の伸びも落ちつき、成熟社会を迎えた中で、世界に誇れる札幌であり続けるためには、人々の生活の質を高め、国内外から投資や人材を呼び込むことのできる都市へと成長していくことが必要である。

こうしたことから、札幌の国際競争力を高めるため、その一翼を担うべく札幌駅交流拠点においては、都心構造の変化や将来の北海道新幹線・路面電車の札幌駅延伸への対応を含め、道都札幌の玄関口として目指すべき将来像を明確にし、戦略的に札幌の新たな魅力や価値を発信していくことが必要となる。

このような観点から、道都札幌の玄関口にふさわしい交流拠点の形成を目的として、多様な関係主体がその将来像を共有化し、協働の取組を進めるため、まちづくり目標を明確にする札幌駅交流拠点再整備構想を策定するものである。

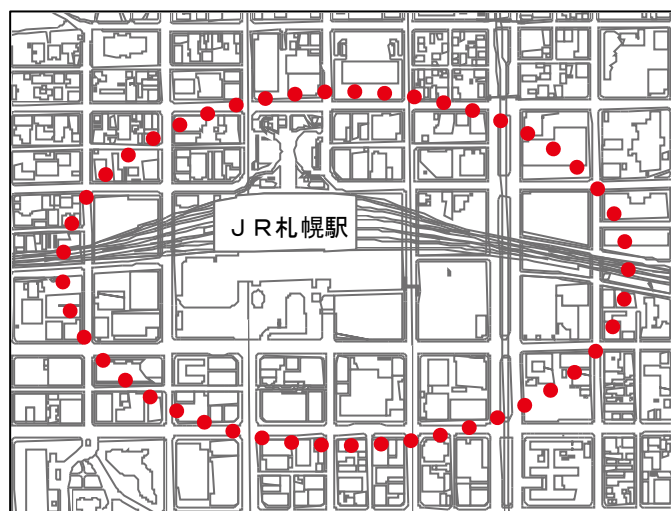


図 札幌駅交流拠点の範囲

序－2 都心まちづくりの目標

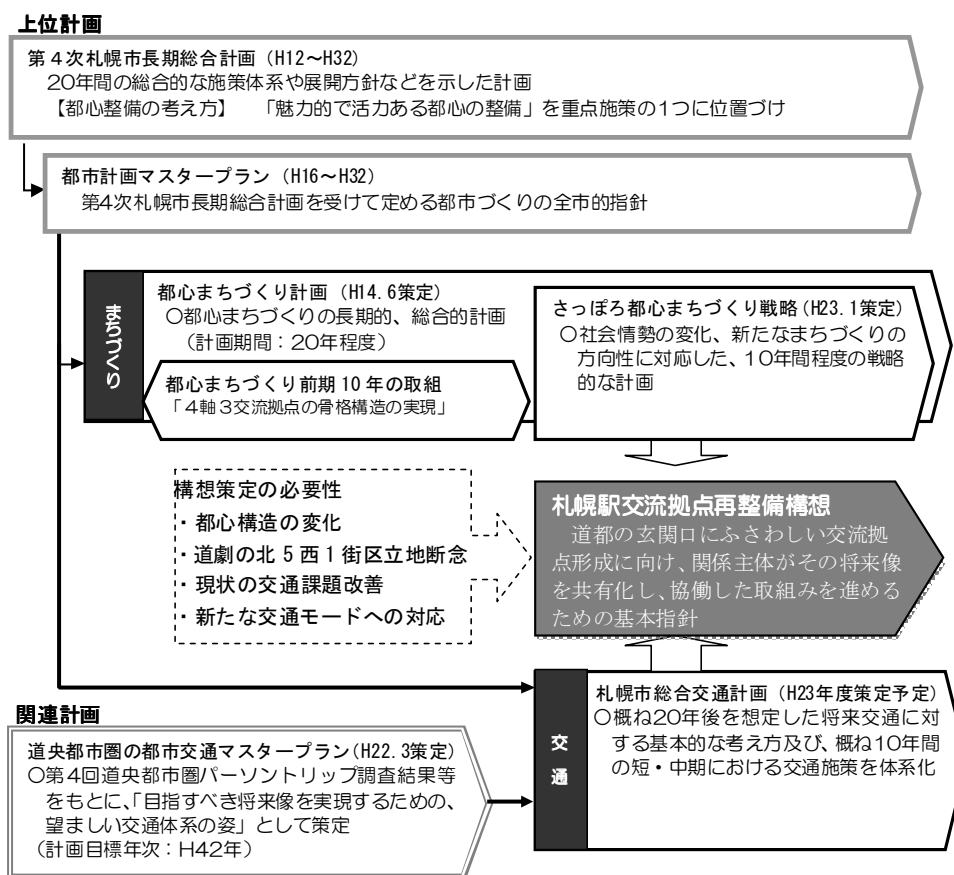
札幌市では、都心を取り巻く社会潮流の変化や新たなニーズに対応するため、「都心まちづくり計画(H14.6)」を補完する戦略的な計画である「さっぽろ都心まちづくり戦略(H23.1)」を策定し、目指すべき都心の将来像を示している。

また、交通施策面では、平成22年3月に策定された道央都市圏「都市交通マスタープラン」により「あるべき将来都市像」の実現に向けた交通に関する基本方針が示され、現在、これを踏まえながら、札幌市を取り巻く様々な課題に対応した将来交通計画であるとともに、より効果的・効率的に事業展開が図れるよう各種交通施策を体系化した「札幌市総合交通計画」の策定に向け検討が進められている。

これら関連計画等に基づいた都心まちづくりの推進によって、観光・ビジネス分野等における国内外との交流促進と新たな環境産業や文化産業の育成、さらには独自の都市文化の創造を展望し、市民生活の質の向上を図ることを通じ、札幌市、ひいては北海道全体の活性化につなげることが期待される。

札幌駅交流拠点とは、「都心まちづくり計画」、「さっぽろ都心まちづくり戦略」における都心の骨格構造【4骨格軸-1展開軸-3交流拠点】に位置付けられており、また、道内最大の交通結節点であることから、これら上位計画の理念を踏まえながら、計画的に拠点形成に向けた取組を進めていく必要がある。

都心まちづくりの計画体系



【関連計画の概要】

(1) 都心まちづくり計画・戦略

◆都心まちづくり計画（H14.6 策定）における、まちづくりの目標

これからの時代の
生活・文化をつくる

成熟社会に対応した都市生活の魅力を誰もが十分に味わえる都心

“世界都市さっぽろ”
をつくる

国の枠組を越えネットワーク社会に対応した“世界都市さっぽろ”の魅力を発揮し続ける都心

◆都心まちづくり戦略（H23.1 策定）

世界に向け魅力を発信し、**市民生活**を豊かにする都心の創出

「道都さっぽろ」の中核として、世界に札幌の魅力を発信し続け、市民生活の豊かさを享受できる場を創出

【人・創造・環境】を視点としたまちづくり

目指すべき都心の将来像

人を中心とした
魅力あるまち

人々の多様な価値観に応えうる魅力的で質の高い人中心の空間づくり

新たな文化と活力を
創造するまち

交流から生み出される新たな産業や文化の創造

みどり豊かな
環境にやさしいまち

札幌らしい美しい街並みの創出と環境負荷の低減に向けた取り組み

○都心まちづくりの目標（都心まちづくり戦略より抜粋）

都心のまちづくりは、「北方圏の拠点都市」「新しい時代に対応した生活都市」（札幌市基本構想）の2つの都市像の具体化を先導する場をつくることを目指すものです。

札幌は、20世紀における都市化の進展に対応するための計画的な都市づくりにより、時々の市民の生活や産業の需要に対応することを精力的に進めてきました。今後は、これまでに構築した都市基盤を有効に活用し、多様な価値観、属性の人びとの生活の質を上げていくことがまちづくりの中心課題となり、これを都心が先導していく必要があります。

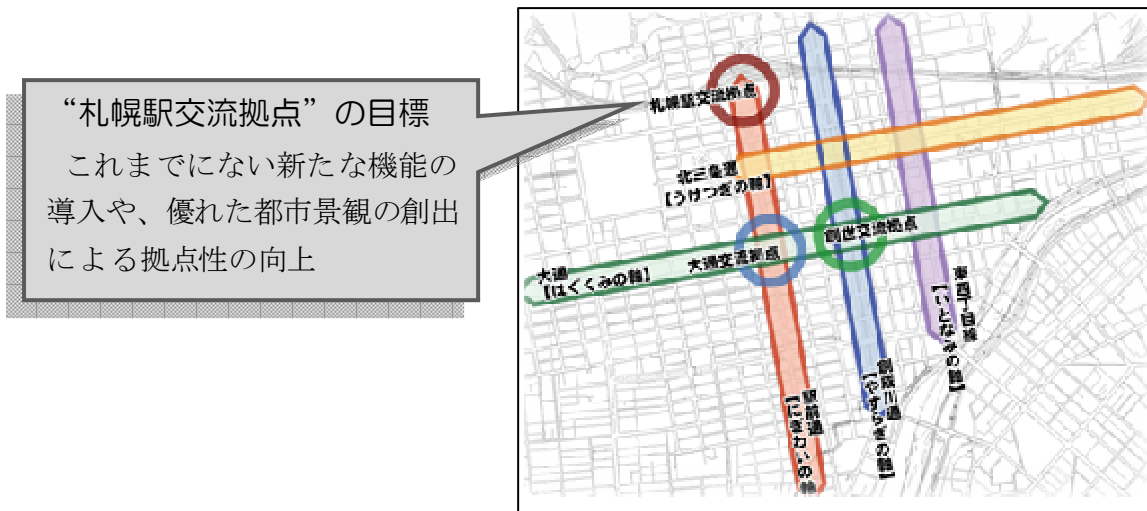
また世界的な都市間競争の中で確固たる地位を確保するため、市民生活の質を高めることについて札幌がひととき優れたまちづくりを展開すること、すなわち、まちづくり自体によって世界都市となることを目指し、これを都心で象徴的に表現していくことが重要です。

○都心まちづくりの5つの展開戦略

【展開戦略1】 さっぽろ象徴戦略 ～さっぽろの持つ魅力を象徴する都心～

- ・世界都市さっぽろを象徴する都心の骨格構造の強化・形成

図 都心まちづくり戦略における4骨格軸1展開軸3交流拠点



【展開戦略2】 創造都市さっぽろ戦略 ～創造性に富む人々が集い、活動する場～

- ・「創造都市さっぽろ」を象徴する場の形成と担い手の育成

【展開戦略3】 環境共生戦略 ～みどりのある美しい街並みと、環境低負荷型のまち～

- ・豊かなみどりを備えた街並みの形成
- ・環境低負荷型のまちづくりの先駆的展開

【展開戦略4】 人を中心とした都心空間戦略 ～界わい性を感じるまち～

- ・多様な活動を支える場としての公共空間の形成とネットワーク化

【展開戦略5】 人を中心とした交通戦略 ～まち歩きを楽しめる都心～

- ・回遊や交流を支える交通環境の充実
- ・地上・地下の回遊ネットワークの形成

○都心まちづくりの重点的取組

都心まちづくりの「重点的取組」

- ・4（骨格軸）－1（展開軸）－3（交流拠点）の骨格構造の実現
- ・交流拠点の形成
- ・地下空間の拡充と活用
- ・界わい空間の創出

都心まちづくりの「重点地区」

- ・創成川以東地区

刺激に満ちた現代的な都市生活を維持させながら、人間性・多様性・内発性を重視したまちづくりを進める

(2) 札幌市総合交通計画（H23年度策定予定）

○計画理念

「暮らし」・「活力」・「環境」を重視する公共交通を軸とした交通体系の実現

○基本方針

暮らし

地域特性に応じた『拠点のまちづくり』を支える

- ・ 公共交通が使いやすい環境の創出

活力

道都さっぽろの顔となる『都心まちづくり』を支える

- ・ 人を中心とした安心・安全な都心交通環境を創出
- ・ 北海道経済を牽引し、その機能を持続・発展させる市民活動・経済活動を支援するため、全道各地からの都心部への速達性向上を図る

さっぽろの『都市観光』を支える

- ・ 外国人なども含む多様な来訪者へ対応する、利便性の高い交通サービスを提供

圏域連携のための『広域交通』を強化する

- ・ 札幌市と道内外とのゲートウェイとなる空港・港湾施設や、市内における高次医療施設等と道内各地とのアクセス性向上を図る

環境

交通システムの充実により『環境首都・札幌』の実現を支える

- ・ 各交通モードの円滑性や連続性を向上させるなど環境負荷の低減による持続可能な低炭素型の交通システムの充実を図る

○各交通モードの基本的な考え方

【交通結節点】

- ・ バリアフリー化や、効率的かつ計画的な維持・改修による機能維持
- ・ ICカード導入による利便性向上やバリアフリー化された移動経路の確保とあわせて、「わかりやすさ」「使いやすさ」を重視し、連携強化を進める

【路面電車】

- ・ 各種のまちづくり計画等との連携を図りながら延伸実施に向けた検討を進める

【自動車（道路）】

- ・ 都心アクセス強化道路軸（創成川通等）の整備により自動車の円滑性向上を図る

【自転車】

- ・ 都心部や駅周辺から自転車走行空間の確保に向けた取り組みを進めるとともに、ルール・マナーの周知・啓発を図る
- ・ 行政・市民・事業者がそれぞれの役割を踏まえながら、総合的な駐輪対策を推進

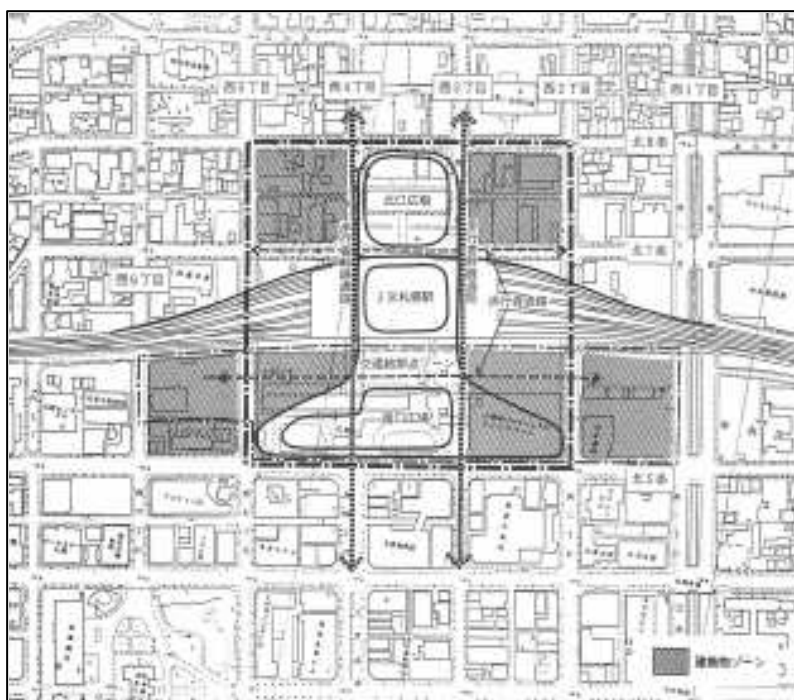
【北海道新幹線】

- ・ 札幌までの延伸について、早期の着工が実現するよう取り組む

【参考】「札幌駅周辺地区整備構想」（平成4年5月）

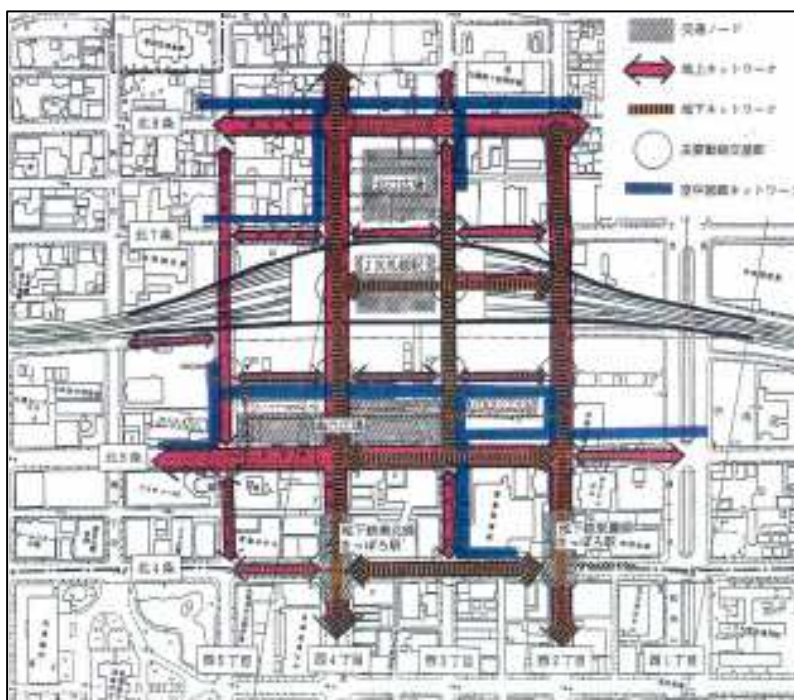
◆基本的なゾーニング

西3丁目通と西4丁目通の中間及び北5条通に面した西3～4丁目を交通結節点ゾーンとして鉄道駅、駅前広場、バスターミナルなど交通機能が結節する南北一体の公共的空間とする。



◆歩行者動線の考え方

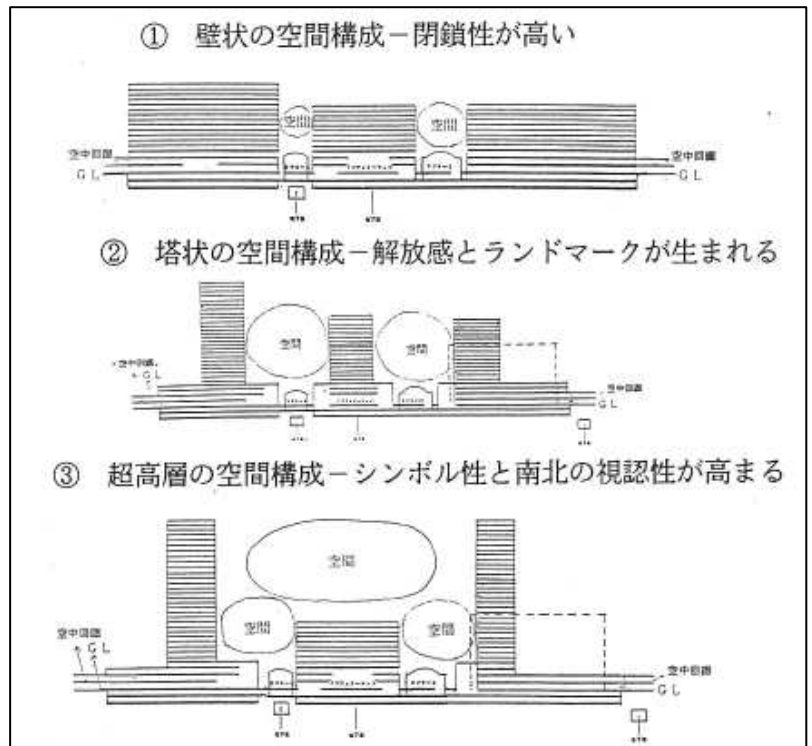
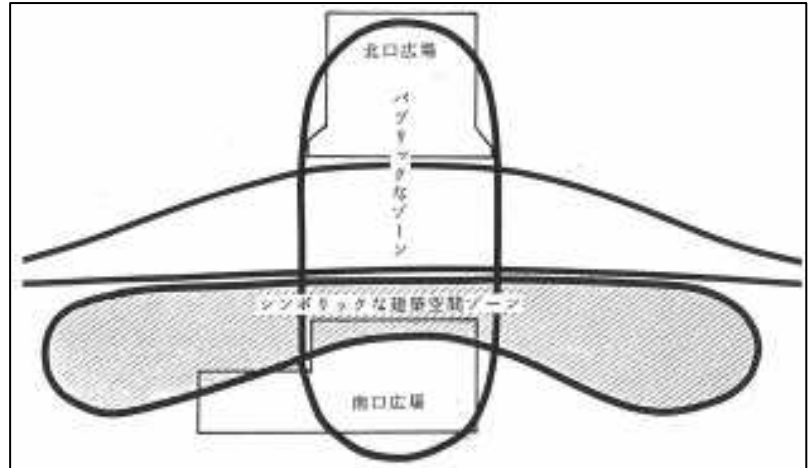
- ・ 地上：南北の一体化と緑のネットワーク形成に配慮した歩行者動線を計画する。
- ・ 地下：地上と一体的なネットワーク構成を図る。地下の主要動線交差部には広場や地上・地下の一体化したゆとりのある空間形成につとめ、快適でわかりやすい地下通路空間の形成を考慮する。
- ・ 空中：地上における通路の確保や横断困難カ所と大規模商業施設等を結ぶ空中回廊ネットワークを形成することが望ましい。



◆建築空間の空間構成の考え方

- ・平面：東西両連絡通路並びに南北駅前広場を結ぶパブリックゾーンと、高架南側で東西方向に連なるシンボリックでにぎわいのある建築空間ゾーンのクロスするゾーンとしてとらえる。
- ・立体：低層階は、ゆとりある敷地利用でかつにぎわいのある連続性の高い空間の形成を考慮する。

高層階は、閉鎖的な壁面の連続をさけ、札幌の都市エネルギーを象徴するシンボル性の高い建築空間の形成を考慮する。



1 札幌駅交流拠点の位置づけ・役割

I-1 世界都市さっぽろへ向けた基本認識

【世界から投資や人材を呼び込むことができる成熟都市へ】

「成長」から「成熟」へ、札幌の都市づくりは今大きな転換期を迎えている。

これまでの人口の増加や産業の発展など都市の成長に合わせた市街地の拡大から、少子高齢化、人口の伸び悩み、人々の価値観やライフスタイルの多様化といった成熟社会を迎え、持続可能なコンパクト・シティへの再構築が求められている。

また、北海道の長引く経済低迷からの脱却に向け、北海道の中心都市である札幌は、より一層その存在価値を高め、北海道経済を牽引していくことが極めて重要である。

このような中、多くの市民に愛され、世界に誇れる-アジア・世界レベルでの都市間競争の中で確固たる地位を確立できる-札幌であり続けるためには、市民生活の質向上を目指して、札幌がひととき優れたまちづくりを展開し、まちづくり自体によって世界から投資や人材を呼び込むことができる都市へと成熟していくことが必要である。

もとより、札幌は、東アジアと北米を結ぶ線上に位置し、日本海側と太平洋側に3港湾（小樽・石狩・苫小牧）、さらには2空港（新千歳・丘珠）が立地または隣接している地理的優位性を有している。

今後、世界及び東アジア各地域の成長と活力を取り込みながら札幌が成熟していくためには、人・モノ・情報など様々な面での交流促進が重要であり、そのためにはこれら2空港3港湾の機能強化に加え、札幌都心と2空港3港湾をスムーズに結ぶ広域アクセスの強化が必要である。

さらに、全国各地を訪れる外国人観光客や国内外のビジネスパーソンなどとの交流促進を図るためには、北海道新幹線の札幌延伸が不可欠である。

これら総合的な取組によって、国内外に高い知名度を誇る北海道・札幌と国内外主要都市との結びつきが強化されることで、国が進めるビジット・ジャパンに貢献するとともに、都市としての国際競争力向上が期待される。



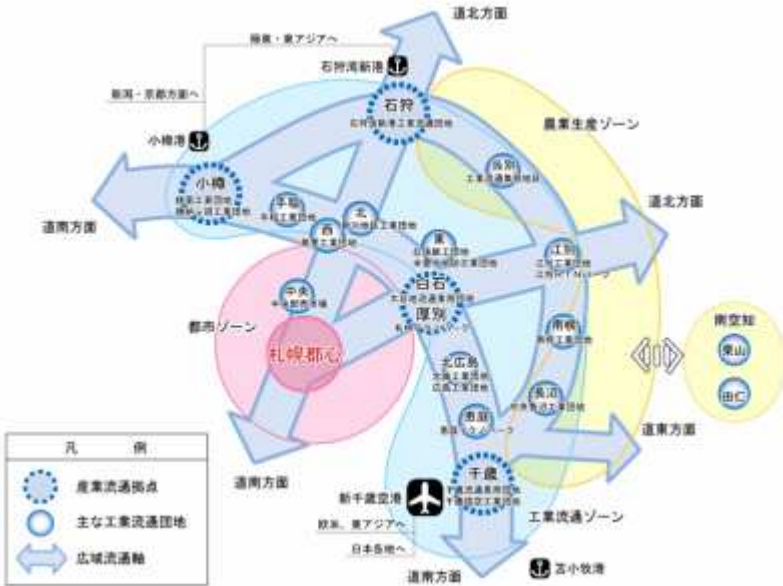
資料：第4回道央都市圏P T調査



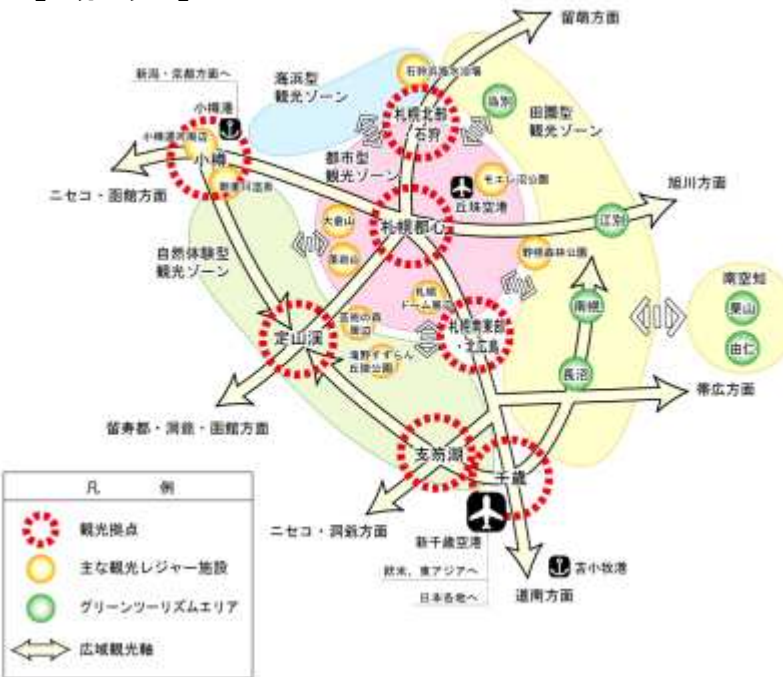
【参考：道央都市圏における交流・連携概念図】

国際競争力の強化、都市の経済活動の維持・向上に向け、札幌都心部を核として2空港3港湾が連携した交流・連携機能の強化が重要

【産業・流通】

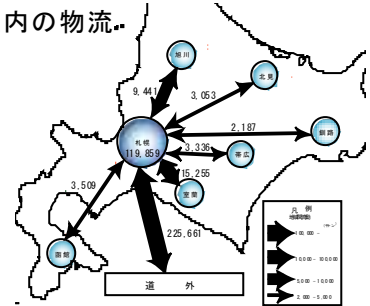


【観光】



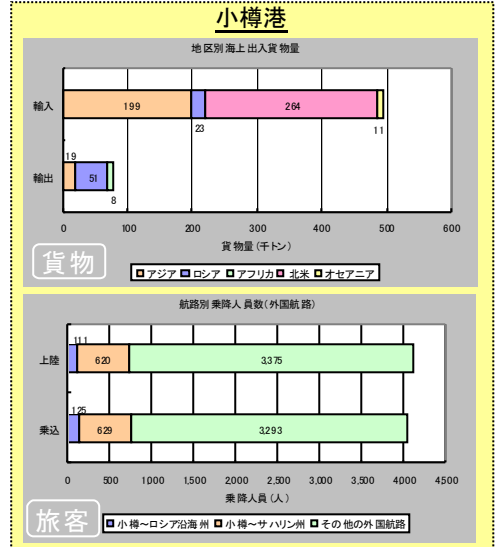
資料：第4回道央都市圏PT調査

■道内の物流

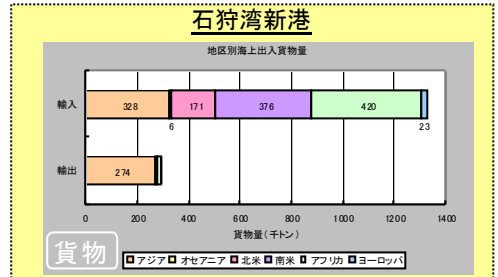


資料：貨物地域流動調査（平成17年）

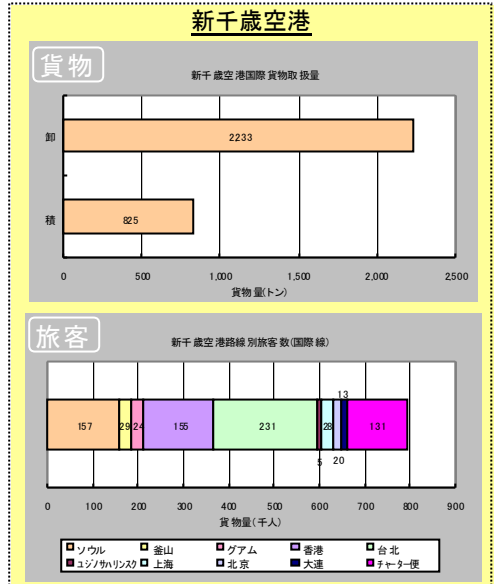
■空港・港湾における国際化



資料：平成21年小樽港統計年報



資料：平成21年石狩湾新港統計年報



I - 2 札幌駅交流拠点の役割・拠点形成の方向性

札幌駅交流拠点は、外部からの来訪者にとって最初に足を踏み入れる玄関口であり、札幌という都市の印象が大きく決定づけられる場所である。

札幌に住んでいる市民にとっても都心部はまちの顔であり、特に札幌駅交流拠点においては、**道都さっぽろの“玄関口”にふさわしい顔づくりとともに、北海道・札幌をアピールする場の形成**が求められる。

したがって、札幌駅交流拠点では、「さっぽろ都心まちづくり戦略」における『人』『創造』『環境』の3つの視点によるまちづくりの具現化を図ることで、札幌の魅力を発信し、市民生活を豊かにする都市空間を形成していくことが必要である。

さらに、道内最大の交通結節点であり、今後、北海道新幹線、路面電車など更なる公共交通の集積や**(仮)新千歳空港ICの着工による広域アクセスの強化**などを踏まえると、人にやさしいシームレスな交通環境の形成を推進するとともに、市内外、国内外とのヒト・モノ・情報等のあらゆる交流を創造し、北海道・札幌の発展・活性化を牽引していくことがその大きな役割と考えられる。

また、東日本大震災によって甚大な被害を受けた東北地域への人流・物流を支援するなど、札幌は北日本の一大交通拠点としての役割を担っていくことの必要性は、これまで以上に高まっている。

このことから、札幌駅交流拠点は、「さっぽろ都心まちづくり戦略」における『人』『創造』『環境』に加え、道内最大の『交通』結節点としての機能強化の**4つの視点**によるまちづくりを推進していくことで、札幌の魅力を象徴的に発信する場を形成し、国内外の観光客・ビジネスパーソン等を惹きつけ、集客交流都市としての国際競争力を高めていくための拠点としていくことが重要である。

(1) 『人』：魅力的で質の高い人中心の空間の形成

都市の魅力と活力を高めるためには、人々の活動やにぎわい、交流、憩いの風景が日常的に見える、魅力的なパブリックライフ^{※1}が展開されていることが重要である。

札幌の“玄関口”である札幌駅交流拠点^{※2}は、都心におけるパブリックライフの起点であることから、駅前広場を中心として、都心に住む、あるいは訪れる人々の多様な価値観に込め得る“魅力的で質の高い人中心の空間の形成”を図っていくことで、大通・すすきの方面や都心まちづくりの重点地区である「創成川以東地区」など、都心全体にパブリックライフを展開させ、都心の生活に厚みを増すための取組を進める必要がある。

また、世界と交流する世界都市さっぽろとして、人々の集散や交流、情報発信、円滑かつ快適な交通結節点、文化や産業交流など、人々の活動を支える機能が適正に配置された中で、札幌駅を降り立った瞬間から、「世界都市さっぽろ」を実感できる魅力的な都市の風景^{※2}の形成が求められる。

※1：パブリックライフとは、働く、学ぶ、遊ぶ、住む、といった基本的な都市の生活を支える人と人、人と都市とのコミュニケーション活動であり、イベント交流や文化活動、ビジネス交流などを通じて育まれる人々の連帯感や都市を楽しみ、誇りに思う姿が、魅力的な都心の風景を創出する。

ここでいうコミュニケーション活動とは、都市のもつ空間や歴史・文化、人々等と出会い、触れ合うことによって、都市のよさ、素晴らしさを体感する、あるいは自らが都市活動に参画することによって、新たな都市の歴史・文化等の創造することをいう。これらの行為により、結果として人々の都市に対する愛着や誇りが醸成される。

※2：都市の風景とは、都市を形成する建物や街路・広場および植栽といった都市景観要素に加え、そこでの都市生活・都市活動を含めた総体をいう。

(2) 『創造』：産業や文化を創造する交流の場の形成

札幌市では、平成18年3月に「創造都市さっぽろ (sapporo ideas city)」宣言を行い、市民の創造性を活かした、新しいまちづくりの方向性を打ち出している。

近年、グローバル化の流れの中で、世界中の都市間での文化や観光、人材や経済の交流活性化が求められており、札幌市においても、国内外のあらゆる交流を活性化させ、そこから生み出される創造的な力によって、都市課題の解決に取り組むことが重要になっている。

札幌駅交流拠点では、この「創造都市さっぽろ」の推進に向け、道内最大の交通結節機能という特性を生かし、市内外、国内外とのヒト・モノ・情報等のあらゆる交流を創出することにより、人々の創造性を誘発し、新しい産業や文化を生み出すための起点となる場を形成することが求められる。

このことにより、様々な交流から誘発される創造性を原動力としたまちづくりの活性化が期待される。